

ワークショップ

あきらめていませんか？関節と背骨の痛み

東京女子医科大学学会 第331回例会

日時 平成17年2月26日（土）13:30～17:05

場所 東京女子医科大学 第二臨床講堂

座長

1. 骨粗鬆症性脊椎椎体骨折の新知見と治療法の進歩
2. 人工膝関節形成術の進歩
3. 人工股関節置換術の進歩

（第二病院整形外科）井上和彦
（整形外科）加藤義治
（第二病院整形外科）野口昌彦
（第二病院整形外科）千葉純司

序文

（第二病院整形外科）井上和彦

2000年よりWHO（世界保健機関）は、bone and joint decade（骨と関節の10年）として、骨と関節の病気を撲滅する運動を展開している。骨と関節の病気は、少し日常生活動作に支障が起きるのみで致命的でない簡単な病気と考える人もいる。しかし、腰や背中の骨や関節が痛くなると日常生活への支障は想像以上に大きなものである。そして、住民調査によると、膝が痛い男性は80歳まで生きられない、胸腰椎に圧迫骨折が起これば長生きできない、など生命予後にも関係している。高齢社会の日本では、特に骨と関節の障害は重要な医療上の対象であり、大きな社会的問題である。例えば、大腿骨頸部骨折は寝たきりの原因である脳血管障害に次いで第二位になっている。

それでは骨について考えてみよう。骨はいったんできると変化しないように見えるが、古い骨が吸収され、新しい骨に置き換わっている（リモデリング）。このリモデリングが6～9ヵ月かけて完了する。つまり6～9ヵ月で人体の骨は全て生まれ変わっている。女性では、閉経後にホルモンのバランスが崩れて、

骨のリモデリングが変調し、骨が弱くなり、腰椎、胸椎（背骨）に圧迫骨折を起こす。骨の強度を上げる良い薬が開発され、飲み続けると骨量が増え、圧迫骨折が減る。また、圧迫骨折が背骨の痛みの原因であれば手術で治すことができる。骨が弱くなると大腿骨頸部（股関節の近く）に骨折を起こしやすくなり、この部位は血液循環の関係から骨折の治りが悪く、人工骨頭の手術が行われる。

次に関節について考えてみよう。関節は年とともに関節軟骨が磨耗する。股関節、膝関節では変形性関節症を引き起こし、歩行障害が起これば、進行すると関節を人工関節に置換する手術が必要となる。人工関節は機種と技術が進歩して、3～4週間の入院で歩行時の痛みがなくなり、20～30年くらいは使い続けることができる。手術は熟練を必要とし、感染に対する十分な対策を必要とする。

高齢者の手術は早い時期のリハビリテーションが必要となる。人工関節の進歩により、車イス生活の人が独歩できるし、スポーツも楽しめるようになった。